

## 平成17年度病害虫発生予察特殊報第2号

栃木県農業環境指導センター 平成18年1月16日

### Tomato yellow leaf curl virus による トマト黄化葉巻病の発生について

1 病原ウイルス：Tomato yellow leaf curl virus (TYLCV)

2 作物名：トマト

#### 3 発生経過

平成18年1月上旬に、下都賀農業振興事務所管内のトマトハウスにおいて、上位葉が黄化し、葉巻症状を呈する株が確認された。農業試験場病理昆虫研究室でPCR法による検定を行ったところ、1月12日に県内では未確認のTomato yellow leaf curl virus (TYLCV)によるトマト黄化葉巻病であることが判明した。

本病は、平成8年に静岡県において日本で初めて発生が確認されてから、西南日本を中心に分布を拡大し、平成18年1月13日現在、24府県で発生が確認されており、大きな被害をもたらしている。

#### 4 病徴

発病初期は、**頂葉が葉縁から退色しながら葉巻症状を呈し、その後、葉は表側に巻き、**

**葉脈間が黄化縮葉する。**さらに病徴が進行すると頂部が叢生（そうせい）し、株全体が萎縮する。特に生育初期に感染すると、激しく発病する。なお、発病後は開花しても結実しないことが多く、発病前に着果した果実は小玉傾向にあり、大きく減収する。

初期の症状

葉巻症状



#### 5 伝搬方法

本病はシルバーリーフコナジラムのみによって媒介される。成虫及び幼虫ともにわずかに約15分の吸汁でウイルスを獲得し、約1日の潜伏期間の後、死亡するまで伝搬能力を

保持する。

汁液伝染、種子伝染、土壌伝染、経卵伝染はしない。

## 6 ウイルスの寄主範囲

国内で自然感染して症状が確認されているのは、栽培作物としてはトマト、ミニトマト、トルコギキョウだけであり、自然感染して無病徴の作物としてピーマンがある。雑草で自然感染が確認されているのは、センナリホウズキ、タカサブロウ、ノボロギク、ノゲシ、エノキグサ、ハコベ、ウシハコベ、ホソバツルノゲイトウがあるが、いずれも無病徴である。

## 7 防除対策

(1) 罹病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋没するか、ビニール袋などで密封し枯死させてから処分する。

(2) シルバーリーフコナジラミの発生を確認したら直ちに薬剤による防除を行う。薬剤についてはアルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤、バリアード顆粒水和剤、ベストガード水溶剤、モスピラン水溶剤、アプロード水和剤、サンマイトフロアブル等を散布する。

(3) 施設栽培ではシルバーリーフコナジラミの侵入を防止するため、施設の開口部に防虫ネット(0.4mm目以下)を張る。

(4) シルバーリーフコナジラミの寄主植物は500種以上あると言われており、施設内外の雑草は生息、増殖場所となるので、除去する。また、鉢物など栽培に関係ない植物は施設内に持ち込まない。

※薬剤散布時には、使用基準をよく確認する。ミニトマトは登録内容が異なるので注意する。

TEL 028-626-3086

<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>